この一ヶ年間は総評全体にとつても、又我が関東地方評議会にとつても眞に苦難ホ**イバラ**の道を踏んで来た一年間であつた。

だが我々の純血ホる左翼的冒險と闘争の実践は、一切の困難を克服して関東地方評議会の確立に巨大ホる一歩を踏み出したのだ。

今や我々は厳正ホる階級的立場に立つて過去の一切の過誤を清算し、旧労農党以来の、或は新に解放戦線に参加された全国の同志と共に戦斗的プロレタリアートの立場を厳守して、戦線統一のために、大左翼結成のために、労働者農民の解放のために、最後まで闘ひ抜くことを堅く誓つて、甚だ簡単ではあるが関東地方評議会の活動報告の結語とするものである。

（以上）

関西地方評議会情勢報告

はしがき

金融資本の圧倒的専制は今や、日支事変を契機として、中小商本家、中小地主の没落となり、其のもがきとアッショに求めて、社会ファッショの共力のもとに、今や必死に成つて、没落資本主義は一切の負担を労働者農民に転荷してゐる。

我が関西地方は、企業、工業、商業の中心地にして、実に経済の中心を立すものである。と同時に、又労働者搾取場を形造つてゐる、なかんづく大阪は其の中心地帯である。ダカラ当然、資本主義攻勢は猛烈を極め、又当然、労働者の抗争も必然激化される。

去年より今年に起つた争議、即ち日本橋染、住友製鋼、九松メリヤス、伸住争議、多木肥料、日本エレベーター、等々実に血を見ねば止まなかつた具体的事実である。いつの場合も、ダガ特に、飢？死？以外にない迫ひつめられた労働者階級の必死的反抗の現われである。しかもかゝる現れは農村に於いても見る事が出来る、立毛、立毛、土地取上げ等々、実に惨憺たる窮迫搾取された貧困農民の極度の反抗が全国に燎原然と渦まいてゐる。

かくして労働者、自身の解放と一方に農民解放の支持と加勢素づけられてゐる。かゝる情勢の中に関西地方評議会創立以後漸次拡大されて行つたが、一時三党合同に反対し、又内部会同会、運動等の準備不備と建設途上にあつた為め、動員網不確立、不活潑のため、其の為め全国的聯合体としての威信を失墜し、消滅した様な結果に成りはしたが、又は小田、飯石等のボス幹の巣喰ふてゐた為めに――西原其他大小のダラ幹の為に――不活潑をまぬかれなかつたが、メーデー斗争以後、再生の意義ものすごく興奮してゐる、全国の同志よ期待して呉れア

各部局報告

関西地方評議会報告（略報）　執行委員會　十九回　関権

事務部

住友事件を初め大野ガラス、甲子製衣材、和歌山竹刀製材、日本エレベーター其他大小の争議の援護方法を講ず（後回）

政治部

三党合同以来合同反対を決議し、労農党を解党し、以来、府会運動には、中央委員会の指令に従つて、地方選挙斗争同盟を組織し、神戸地方では古家、宍戸君、京都地方は坂本時三、大阪地方では飯石豊吉、西原澄夫、朝日俊雄の上三名を立候補せしめ、反動国主義戦争斗争を通じ戦争に戦ひ抜いた。

誠選挙には各地に影候補を立て、ビラ、伝単、手紙を運行した。